

みらい図書だより

発行：東京未来大学図書館

〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34-12 TEL：03-5813-2540 (内線 1202) FAX：03-5813-2529
URL：http://www.tokyoumirai.ac.jp//library/ 印刷：上武印刷株式会社

図書館と私

エンrollment・マネジメント局長 小海勝正

小学生のときには、近くに大きな3階建てのレンガ調の図書館がありました。図書館は友達と遊び（鬼ごっこ）に行くという居場所であり、その記憶が鮮明に残っています。今思えば大変失礼な小学生たちで、幾度となく図書館の方に叱られました。

中学・高校時代はテスト週間には図書館を利用していましたが、友人たちも同様に図書館に来るのでいつの間にかランプをしていることが多く意味のない図書館勉強になっていました。今思えば初めから家に帰って勉強しろと言いたいですが、携帯がない時代で暗黙の待ち合わせ場所になっていたのもそれはそれで懐かしい思い出です。

それから本格的に図書館に通うようになったのは大学受験のときでしょうか。図書館の本を読むのではなく参考書を開くので、集中できるという居場所でした。その時に騒々しい小学生・中学生が居るととても頭にきたものです。行いは戻ってくるものですね。

図書館には様々な人がいます。本の世界に入り没頭する方。本を通じてコミュニケーションをとる親子。本自体探ること

を楽しんで歩き回る方。人生をかけ資格取得のために厚い六法全書を食い入るように覚える方。何もせずにボーっとしている方。そして図書館を運営する方。毎日通うと本ではなく人間を見てしまいそうです。

社会人になってからは図書館に定期的に本を読みに行くようになったでしょうか。知識を得るには本を読んで他人（筆者）の考えを知り、吸収することが近道だと思ったからです。仕事で悩んだときにも本を読み、同じ考え、異なる角度からの考えなどを本から学び自分自身をマインドセットできた居場所でした。現在も大学の図書館にも定期的に行き数分ですぐ立ち読みをすることもあります。

大学内で静寂を感じることができることはとても貴重な空間で気持ちが落ち着き、自然と集中できる環境ではないでしょうか。本を読むことだけでなく、ゆっくり落ち着いて考える時間はとても大事で貴重だと思います。私にとって図書館は自分自身と向き合える空間・時間があり、私にとっては欠かせない居場所です。



開かれた図書館をめざして

図書館長 佐々木 由美子

2014年に創刊された「みらい図書だより」も今号で7号になります。福崎図書館長、神部図書館長と、ここ5年ほどにわたって図書館の改革・改善に取り組んでいらした成果が確実に現れ、図書館の利用者数も大幅に増加しました。ただ、近年は利用者が減少することはないものの、横ばい状態が続いていました。もっと学生にとって身近で利用しやすい図書館にしていくためにはどうしたらいいのか……。今年度、図書館運営委員会のメンバーと今後の図書館運営について話し合った時に、真っ先に出てきたのは、学生が主体的に関わる開かれた図書館というイメージでした。そこから、新たな企画が次々に生まれてきました。

一つ目は図書館についての座談会の開催です。学生のみならずが図書館の現状をどのように捉え、どのような図書館を望んでいるのかを知らなければ前に進めません。参加してく

ださったみなさんのご意見は、とても新鮮でした。学生目線でみた図書館の良さや不便さを、改めて教えてもらいました。二つ目が学生による選書ツアーです。読みたい本が図書館に行けばあるというのも大切なことですし、なによりも図書館に入りたい本を書店で自由に選ぶことができるなんて、考えただけでも楽しくなりませんか。（座談会と選書ツアーの様子は2・3頁に掲載しておりますので、ぜひお読みください）

私にとって図書館は格別な場所です。知の探求や冒険を楽しみ、物語の世界に心躍らせ、インスピレーションや啓示を得たり、ときにぼーっとしたり…。一人ひとりの楽しみ方や過ごし方が図書館にはあります。一人ひとりにとって図書館がより豊かで、より格別な場所となるように、みんなで作っていきませんか。

学生座談会報告

『未来大の図書館にのぞむこと』



図書館に関する学生座談会が、7月23日（火）に約1時間にわたって行われました。当日は、こども心理学部3年関佑介さん、こども心理学部2年串田久美さん、モチベーション行動科学部1年櫻井七緒さん、佐藤美蘭乃さんの4名に登壇していただきました。以下、多く出された意見を中心に当日の様子をレポートします。

1. 『図書館に入りにくい。』

- ・「図書館の入り口のカードリーダーが1回では入れないのが、残念。」
- ・「図書館に、入りづらい、入り方がわからない。カードリーダーのやり方もわからない。そのため、敷居が高いと感じてしまう。」
- ・「授業で、図書館の検索の仕方はやったが、入り方がわからないので、行きづらい。カードが反応しないことで、入り口で減入ってしまう。」

⇒このような、根本的なハード面の問題があることに驚かされました！

2. 『本数が足りない。』

- ・「絵本や文庫本、小説の数が足りない。」
- ・「借りたい本、読みたい本があまりない。」
- ・「学部の特性を活かした本がない。」
- ・「自分にとって役立つ本がほしい。」

⇒具体的には、今売れている本や、映画やドラマの原作、経済・経営関係の読みやすい本、企業の創業者の自伝、授業で扱う漫画、ライトノベル、雑誌（ファッション雑誌や映画雑誌、情報誌など）を図書館に入れて欲しいそうです。この点には、「学生側からもリクエストができる」ということを知らされ、知らない学生がほとんどということが判明。

「選書ツアー」の情報が提供されると興味を示す学生もいました。また、教員と学生が必要だと考えている本に相違があることに気づかれました。

3. 『図書館に望むこと』

- ・「図書館内の一部の席が直射日光が入って暑いし、図書館内でも、場所によって温度が違うので、改善してほしい。」
 - ・「返却ポストを玄関付近などに設置してほしい。」
 - ・「書籍がどこにあるか色分けして分かるようにしたり[※]、地面に矢印をつけたりすると分かりやすいのでは？」（委員会注：現時点でも配架図はありますが、その存在が認識されていない可能性があります。）
 - ・「図書館の広さは、今後人が来るようになったら、狭いと思う。」
 - ・「実習の際、絵本をたくさんもっていくため、現状では足りず、貸出期間の延長や貸出可能冊数を増やしてほしい。」
- ⇒普段、実際に図書館を利用している学生ならではの切実な声も聞かれました。

☆座談会を終えた感想を聞くと、「図書館に行くときは、レポートを書きに行くことなどが多かったが、もっと本に関心を持ちたい」、「未来大の図書館は明るいし、居心地や雰囲気はよい。これからも利用したいと思う。」とのことでした。

今回の座談会を通して、様々な貴重な意見を聞く事ができました。登壇して下さった学生の皆さん、どうもありがとうございました。（島内）

おすすめの1冊

「これはぜひ！」先生方おすすめの1冊を紹介します。

● 坪井 寿子先生（こども心理学部心理専攻）

『心理学とは何なのか 人間を理解するために』

永田良昭 中公新書（2011）

本書では、ハーロウやケラー等の古典的事例を通して、事実を丹念に観察してその背後にある“心の仕組み”を解明していく心理学の姿が紹介されています。しかしながら、私たちは自ら環境（ものやひと）に関わっているので、実際には“心の仕組み”を働かせながら事実を観察していることへと話が進んでいきます。入門書にしては少し難しいですが、心理学そのものについて考えさせられる本と言えます。



● 紙本 裕一先生（こども心理学部こども保育教育専攻）

『孤独と不安のレッスン』

鴻上尚史 だいわ文庫、大和書房（2011）

昔から一人行動が多かった私ですが、集団を重んじる周囲の大人から孤独な人間はこの世の害であると何度も教わりました。そんなことないと思いながらも、常に不安を抱えながら生きていた私にとって、この本は救いの本でした。孤独を悪だと決めつけるのは少なくとも違いますし、一人で行動することは悪ではないとわかります。不安は誰しもが抱えていることで、私も例外ではありません。現在は「なぜ人は他人を信じることができるのか」に研究の関心があって、この研究は一人行動が悪だと言われていることへの疑問からスタートしていて、この本も参考にしています。値段も770円とお手頃なので、一人行動に不安を覚える方に是非一読頂きたいです。

選書ツアー報告

8月8日(木)に丸善・日本橋店にて、第1回選書ツアーを実施いたしました。選書ツアーとは、学生の皆さんが図書館に置いて欲しいと思う本を自ら書店で選ぶイベントです。未来大学では初めての試みでしたが、9名の学生(こども心理学部8名、モチベーション行動科学部1名)が参加してくれました。店内では、バーコードリーダーを片手に、専門書から小説まで、じっくりと本を選びました。そして、選書後には、「ムーミン」や「ピーターラビット」などの初版といった稀覯本(レアブックス)のコレクションを見せていただきました。

選書ツアーで購入した本は、現在、図書館に並んでいますので、ぜひ手に取ってみてください。

最後に、参加して下さった学生の皆さんの感想を紹介します。



- ・ 欲しかった本が自由に選べるって、なんて贅沢なんだろうと思いました。好きな本のジャンルが偏っていますので、欲しい本は日常的にリクエストしようと思います。普段ゆっくりお話する機会がない先生や仲間の皆さんと交流できて本当に良かったです。素敵な企画をありがとうございました。
- ・ 最初は色々な所を回っていたのですが、大丈夫かなあと思いつつも途中から色々読み込みました。予算や数について何も聞いていなかったのも、不安になりつつ特に欲しいと思ったものだけにしました。次回、開催されるのなら今度は今回選べなかった分まで選びたいと思います。初版のムーミンや不思議の国のアリスなど、貴重なものを見ることができて、大変嬉しく思いました。あのアンニュイな顔のアリスや、作者の想いが込められた本の数々、思わずうっとり眺めてしまいました。普段見られないものが見ることができて、この上なく喜ばしい限りです。
- ・ 貴重な本・普段は自ら手に取らない本などと出会うことができるとてもワクワクしました。また、自分で図書室に並ぶ本を選べるという貴重な体験ができ、とても楽しかったです！

(小谷)



● 島内 晶先生 (モチベーション行動科学部)

『認知症の人の心の中はどうなっているのか?』

佐藤真一 光文社新書 (2018)

認知症にかかると、「何も」、さらに言えば「自分のこと」さえも分からなくなるのではないかと、そう思う方もいると思います。しかし、心理的機能の一つである「記憶」は失われても、その人の「心」そのものが失われるわけではないため、それは真実ではないと言えるかもしれません。本書は、認知症者の「心」はどのような状態にあるのかという疑問に的確に答えてくれます。そして、認知症はあくまでも「病気」であって、その病気にかかっている「人」の存在、その人の「心」を忘れてはいけないということに、改めて気づかせてくれる、そんな一冊です。



● 小原 舞先生 (エンrollment・マネジメント局)

『「どうせ無理」と思っている君へ 本当の自信の増やし方』植松努 PHP 研究所 (2017)

宇宙開発を行う北海道の町工場・植松電機の社長をつとめる植松努さんが書かれた本。

生活していると「自分に自信がない・持てない」と思うときってありませんか? この本では「どうせ無理」という呪文をはじき返す方法が見つかります。本の中には「どうせ無理」を「だったらこうしてみたら?」に。というメッセージがあります。

「だったらこうしてみたら?」の輪が社会に広がっていくと素敵だなと思います。キャリアカフェに置いてあるのでぜひ読んでみてくださいね。



 **図書貸し出しランキング** (2019/4/1 ~ 9/10)

順位	書名	請求番号
1位	くれよんのくろくん／なかやみわ さく・え、童心社、2001	726.6/NA
1位	よくわかる色彩心理 図解雑学／山脇恵子著、ナツメ社、2005	141.21/YA
1位	色の心理学をかしこく活かす方法／重田紬美子編、河出書房新社、2001	141.21/SH
4位	ねずみくんのチョコッキ／なかえよしを作・上野紀子絵、ポプラ社、1974	726.6/UE/1
4位	ママのスマホになりたい／のぶみ さく、WAVE 出版、2016	726.6/NO
4位	そらまめくんのベッド／なかやみわ さく・え、福音館書店、1999	726.6/NA
4位	ともだちやおれたち、ともだち！／内田麟太郎作・降矢なな絵、偕成社、2011	726.6/FU
4位	999 ひきのきょうだい／木村研作・村上康成絵、ひさかたチャイルド、1989	726.6/MU
4位	たべてあげる／ふくべあきひろ ぶん・おのこうへい え、教育画劇、2011	726.6/ON
4位	ポジティブ心理学入門／クリストファー・ピーターソン著・宇野カオリ訳、春秋社、2012	140/PE
4位	はじめて読む色彩心理学／岩本知沙土著、秀和システム、2006	141.21/IW
4位	乳児院養育指針／全国乳児福祉協議会広報・研修委員会編、全国社会福祉協議会、全国乳児福祉協議会、2015	369.4/ZE
4位	保育士資格・採用試験問題 200 選「20 年度版」／保育問題検討委員会編、大阪教育図書、2016	376.14/HO/2020

※請求番号を載せましたので、興味のある方は是非お読みください。

図書館からのお知らせ

▶ **ポーニャ世界の絵本展**
「世界のシンデレラ・白雪姫絵本」

日時：11月22日(金)～11月28日(木)

図書館開館時間内

今年度は、シンデレラ、白雪姫、眠り姫絵本を集めてポーニャ世界の絵本展を行います。シンデレラや白雪姫というと、ディズニーのイメージが強いかもしれませんが、絵本の世界をのぞいてみると、とても個性的なシンデレラや白雪姫絵本が数多く出版されています。この機会にぜひ、見比べてみてはいかがでしょうか。

ポーニャ世界の絵本展とは??

本学では、毎年ポーニャ世界の絵本展を開催していますが、なぜポーニャなの?と思われた人も多いでしょう。実は、展示しているのは北イタリアの都市ポーニャから日本に寄贈された本なのです。

ポーニャでは、毎年春にブックフェアを行っています。ブックフェアとは、世界中の本が一堂に集められる書籍の見本市のことですが、ポーニャブックフェア、ロンドンブックフェア、フランクフルトブックフェアが世界の三大ブックフェアです。なかでもポーニャは児童書のみを集めた世界初の児童書専門の国際書籍見本市で、世界中の子どもの本が集まるのです。その見本市と並行して絵本の原画展も行われ、

世界中のイラストレーターが応募した作品の中から優秀な作品のみが展示されます。まさに絵本作家への登竜門ともなっているのです。

本学で展示している世界の絵本は、ポーニャから友好都市である板橋区に寄贈され、いたばしポーニャ子ども絵本館で所蔵している絵本のごくごく一部をお借りしています。一度、いたばしポーニャ子ども絵本館に足を伸ばしてみるのも良いと思います。また、ポーニャブックフェアについてもっと知りたい方は、『ポーニャブックフェア物語—絵本の町ができるまで』(市口桂子著、白水社、2013年)に詳しく書かれています。こちらぜひ読んでみてください。



▶ **なかやみわさん講演会**
「20年絵本を描き続けて、今思うこと…」

日時：11月27日(水) 13:00～14:20

場所：東京未来大学

『そらまめくんのベッド』や『クレヨンのくろくん』など、子どもたちに大人気の絵本を次々と創作してきた絵本作家・なかやみわさんの講演会を行います。昨年、デビュー20周年を迎えたなかやさん。これまで制作してきた絵本のことや、子どもと絵本の関わりについてお話ししてください。ぜひ、ご参加ください。



編集後記

新体制のもとスタートした図書館管理運営委員会ですが、あんなことも、こんなこともできたらいいなと、(本への愛情にあふれた)委員総出で、知恵を絞っております。様々な取り組みが、図書館の利用者増加につながればうれしい限りです。そんな中、図書だよりも、一部内容を変えて、皆様にお届けすることになりました。いかがでしょうか。皆様のご意見、ご感想をお寄せいただけましたら幸いです。(一個人としては、ひとまずほっとしているというのが、本音です。)また、本誌発行にあたり、ご協力いただきました皆様に御礼申し上げます。どうもありがとうございました。(し)